

A ppendix

ヒアリング調査一覧

ヒアリング実績

ヒアリング対象者 ※敬称略

a.温室効果ガス削減

KPI	関連技術	氏名	所属	ご専門	ヒアリング日時
①農林水産業のCO ₂ ゼロエミッション化	バイオ燃料	山根 浩二	滋賀県立大学 教授	・バイオディーゼル、内燃機関等が専門	2022/10/12
	バイオ燃料	尾立 維博、太田 晴久	株式会社ユーグレナ 執行役員 エネルギーカンパニー長、バイオ燃料事業部	・ミドリムシの研究・生産を行うバイオベンチャー企業 ・藻類から油脂を取り出し、家庭廃油と混合させたSAFの製造を推進	2022/11/7
	カーボンファーム	Augusto Gibernau Torres	NTT DATA EMEAL ディレクター	・EUにおける産学官体制でのカーボンファーム推進イニシアチブ「EU Carbon+ Farming Coalition」を立ち上げから現在まで支援	2022/12/15
②農林業機械・漁船の電化・水素化等技術の確立	農機の電化・水素化	佐藤 大輔	株式会社クボタ	・国内で電動農業機械の開発を先進的に推進。 ・みどりの食料システム戦略に合わせた技術紹介カタログブックを作成	2022/9/27
③化石燃料を使用しない園芸施設への完全移行	ハイブリッド型・ゼロエミッション型施設園芸	後藤 一寿	NARO開発戦略センター 研究管理役	・農研機構の欧州拠点（オランダのワーヘニンゲン大学内）に駐在し、欧州の動向を把握	2022/10/5
	ハイブリッド型・ゼロエミッション型施設園芸	丸尾 達	（公財）園芸植物育種研究所 理事長 / （株）リーフ・ラボ 代表取締役	・千葉大学園芸学部にて、溶液栽培、植物工場に関する研究を実施。現在は野菜の育種を行う研究所の理事長や、大学発スタートアップの代表 ・エネルギーの視点から次世代植物工場のあるべき姿についての講演実施	2022/11/1
	ハイブリッド型・ゼロエミッション型施設園芸	久保田 智恵利	オハイオ州立大学	・米国における施設園芸・人工光型植物工場の動向 ・オハイオ州環境制御農業センター所長 ・特定非営利活動法人植物工場研究会理事	2022/11/25

ヒアリング実績

a.温室効果ガス削減

KPI	関連技術	氏名	所属	ご専門	ヒアリング日
③化石燃料を使用しない園芸施設への完全移行	被覆資材等の新規環境制御資材	後藤 英司	千葉大学大学院園芸学研究科	・光選択性被覆材の応用及び新機能被覆資材の開発 ・特定非営利活動法人植物工場研究会理事	2022/10/18
	ヒートポンプ	恒川 幹朗	一般財団法人ヒートポンプ蓄熱センター	ヒートポンプに関する企業、学術関係者が作る組織。IEAへのヒートポンプ技術協力、補助事業なども実施	2022/10/31
④我が国の再エネ導入拡大に歩調を合わせた、農山漁村における再エネの導入	再エネ	植松 則和	シン・エナジー(株)取締役	・木質バイオマス、地熱、水力、太陽光等の再エネエンジニアリングに携わり、エネルギーによる地域経済圏の確立に向け各地域で事業展開	2022/10/24
⑤メタンガス削減技術	メタンガス削減	熊谷 元	京都大学大学院農学研究科 応用生物科学専攻 動物機能開発学講座 准教授	・未利用資源の飼料化、熱帯地域における反芻家畜及び飼料の生産技術開発 ・畜産メタンの削減についての検討	2022/10/24
	メタンガス削減	小林 泰男	北海道大学 大学院農学研究科 特任教授	ルーメン微生物の機能・生態及び飼料効率やメタン削減技術の研究開発	2022/10/17
	メタンガス削減	福本 泰之	農研機構畜産研究部門 高度飼養技術研究領域 スマート畜産施設グループ 長	・排泄物処理工程からのメタン排出削減技術の研究を実施	2022/10/28
⑦バイオ炭	炭素貯留	古賀 伸久	農研機構 九州沖縄農業研究センター	農地土壌起源の温室効果ガス削減技術やバイオ炭等による農地炭素貯留技術の開発・普及	2022/11/4

ヒアリング実績

b.化学農薬使用量の低減

KPI	関連技術	氏名	所属	ご専門	ヒアリング日
⑧化学農薬 使用量（リスク 換算）の 50%低減 スマート育種	カバークロップ・ 不耕起栽培	小松崎 将一	茨木大学農学部附属 国際フィールド農学セン ター教授	・環境保全型農業について幅広い知見 ・窒素と炭素の変動と農作業技術との関連等を研究 ・日本農作業学会会長、政策研の技術アドバイザーなどを歴任	2022/8/22
		山内 靖雄	神戸大学大学院農学 研究科 准教授	・植物生理学生化学について幅広い知見 ・みどりの香り成分が植物の高温耐性を促進することを発見し、バイオス ティミュラント「すずみどり」の商品名で実用化 ・バイオスティミュラントハンドブック監修	2022/10/7
		須藤 修	日本バイオスティミュラ ント協議会 事務局長	・バイオスティミュラントの国内外動向について調査 ・アリストライフサイエンス株式会社に同資材のマーケティングの仕事を行い ながら、設立から現在まで日本バイオスティミュラント協議会事務局長	2022/11/9
	土壌くん蒸剤 代替	小原 裕三	農研機構, 農業環境 研究部門, 上級研究 員	・大気を媒介した農薬の環境動態研究を行っており、土壌くん蒸剤のリス ク低減と管理技術について幅広い知見 ・土壌くん蒸剤の代替技術として新規土壌還元消毒技術の開発・普及	2022/11/10
	病害虫管理・ RNA農薬	田中 良明	農研機構 生物機能利 用研究部門 昆虫制御 技術グループ長	・昆虫の発育制御機構の知見から害虫の遺伝子を標的とした防除法に ついて研究 ・RNA干渉を利用した害虫だけに効く農薬や、微生物や植物などの機能 を利用した"環境にやさしい"害虫制御技術の研究開発	2022/11/7
		鈴木 丈詞	東京農工大学 准教 授	・ダニのRNA農薬開発を目指した国際コンソーシアムに所属	2022/11/8
	総合防除	日本 典秀	京都大学大学院農学 研究科 教授	・海外学会での発表も多く、病害虫全般における幅広い知見	2022/10/20

ヒアリング実績

c.化学肥料使用量の低減、d.有機農業拡大

KPI	関連技術	氏名	所属	ご専門	ヒアリング日
⑨化学肥料使用量の30%低減	土壌微生物・緑肥の活用	上野 秀人	愛媛大学大学院農学研究科 教授	・水田における緑肥投入による生育、土壌中の養分動態、土壌微生物への影響を研究	2022/10/20
	ペレット堆肥	飯久保 励	日立セメント株式会社	・食品残渣由来メタン発酵残渣のペレット化	2022/11/8
		久保寺 秀夫	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境研究部門 土壌環境管理研究領域 領域長	・ペドロジー（基礎土壌学）をベースとした、農耕地土壌の評価、診断、管理等に関する研究	2022/11/10
	資源循環（下水からのリン回収等）	原 博之	株式会社クボタ カーボンニュートラル推進部 SIPチーム 兼 研究開発統括部 開発統括チーム	・下水汚泥溶融システムによるリン回収・肥料製造	2022/11/9
⑦耕地面積に占める有機農業の割合を25%に拡大	循環型生産システム	河原林 孝由基	農林中金総合研究所 主席研究員	・再生可能エネルギー、バイオマス利活用、有機・循環型農業等が専門 ・論文に「気候変動を巡る情勢と脱炭素化に向けた政策動向：温室効果ガス実質ゼロ宣言のインパクト」等	2022/11/18
	雑草管理技術	小林 浩幸	宇都宮大学、雑草管理教育研究センター長	・植物保護科学、作物生産科学が専門 ・雑草生態学、栽培学を基盤として、環境保全の本当の意味を考え、持続可能な栽培・雑草管理技術を開発	2022/9/28
⑩耕地面積に占める有機農業の割合を25%に拡大	環境保全型農業	小松崎 将一	茨城大学農学部附属 国際フィールド農学センター 教授	・環境保全型農業について幅広い知見 ・窒素と炭素の変動と農作業技術との関連等を研究 ・日本農作業学会会長、政策研の技術アドバイザーなどを歴任	2022/8/22

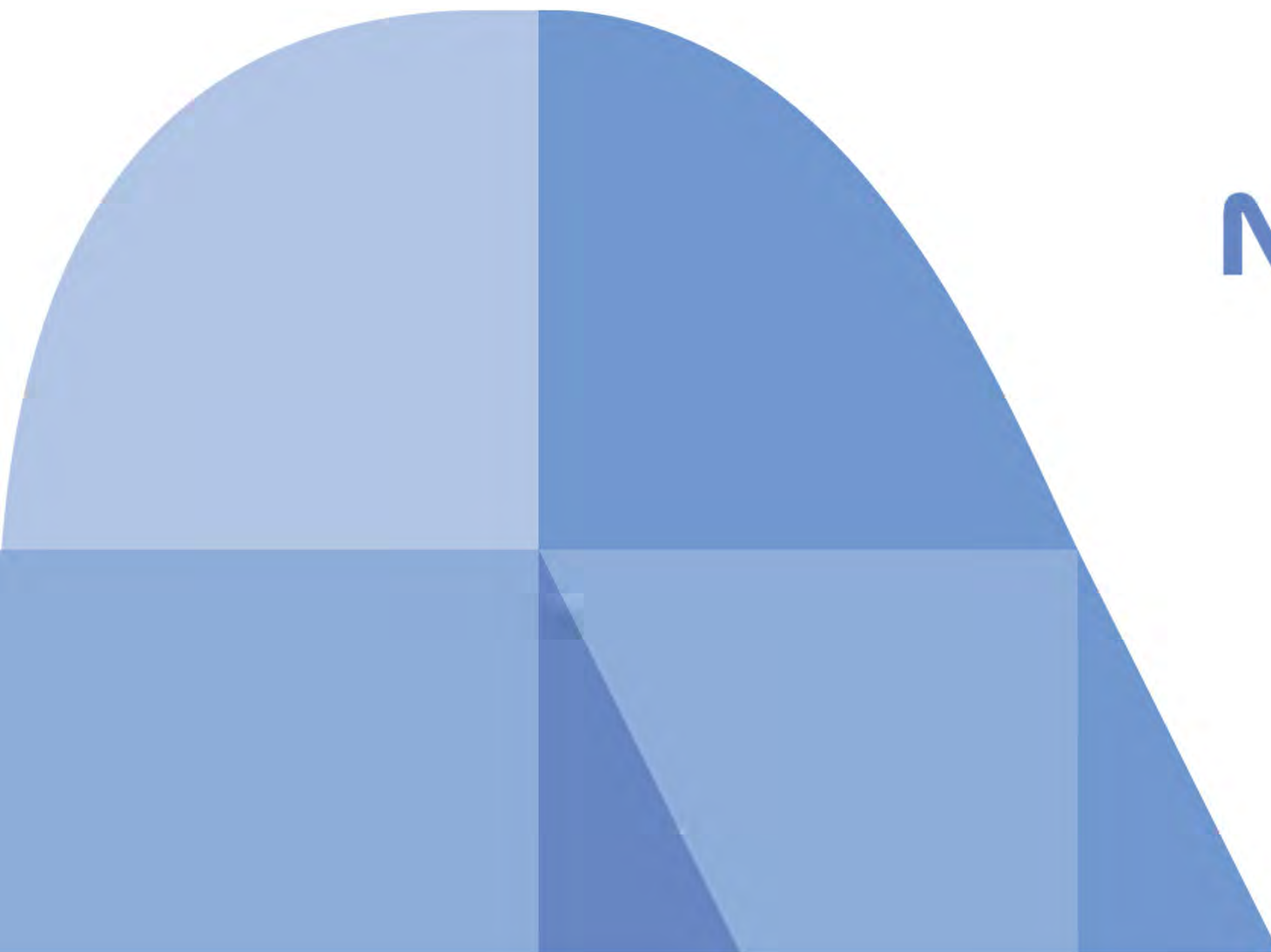
ヒアリング実績

f.林業分野

KPI	関連技術	氏名	所属	ご専門	ヒアリング日
⑮林業用苗木のうちエリートツリー等が占める割合を3割に拡大・高層木造の技術の確立・木材による炭素貯蔵の最大化	木質バイオマス	宮藤 久士	京都府立大学 教授	・COCN緑のエコシステム・プロジェクト リーダー ・木質バイオマス（セルロース、リグニン、バイオエタノール等）の研究	2022/11/1
	スマート林業 林業機械	中澤 昌彦	森林総研 林業工学研究領域 収穫システム研究室 室長	・効率的な木材生産技術及び先導的な林業生産システムの開発 ・I C T技術やロボット技術を活用した高度木材生産機械の開発 ・作業道の情報化施工に関する実証研究 ・積極的長伐期林業を目指した大径材生産技術の開発	2022/10/17

その他

関連技術	氏名	所属	ご専門	ヒアリング日
スタートアップ	関山泰司	大阪公立大学 URAセンター 認定リサーチアドミニストレーター	・米国等外国におけるスタートアップの動向	2023/1/12
	潮 尚之	大阪公立大学 アドバイザー		



NTT Data
Trusted Global Innovator